取材日：2018年5月11日

Diabetes Mellitus
DM
糖尿病

長崎医療圏

各病院の特色を尊重しつつ互いの強みは共有し、地域全体の糖尿病診療のレベルアップをめざす。

Point of View

① 各病院が、それぞれの特色を生かしつつ、情報交換を密にして互いの強みの共有をめざす
② 『長崎糖尿病地域医療研究会』などで、医師や医療スタッフによる情報交換の場を設定
③ 病院の医師たちにも、ICTを活用する『あじさいネット』の利用を提案

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
先進予防医学共同専攻内分泌・代謝内科学分野
准教授
阿比留 教生先生

社会福祉法人恩賜財団済生会支部
済生会長崎病院
副院長／臨床教授／臨床教育責任者／内分泌代謝内科
芦澤 潔人先生

日本赤十字社長崎原爆病院
内分泌・代謝内科
部長
藤田 成裕先生

長崎大学病院
生活習慣病予防診療部
講師
世羅 至子先生

長崎みなとメディカルセンター
糖尿病・内分泌内科
主任医長／栄養管理部長
野崎 彩先生

社会福祉法人恩賜財団済生会支部
済生会長崎病院
内分泌糖尿病内科
渡部 太郎先生

糖尿病などの生活習慣病になりやすい長崎市の地域特性

この日、長崎市内の４つの基幹病院の医師たち６名が一堂に会した。長崎市とその周辺地域、さらには長崎県全域の糖尿病診療のこれからについて話し合うためである。まず、長崎大学准教授の阿比留先生が会合の趣旨について述べた。

「本日は、長崎市と周辺地域及び長崎県全体の糖尿病診療の格差や偏在を解消し、診療の質を上げていくには何をすべきか、また、何ができるのかを話し合っていきたいと思います」（阿比留先生）

引き続き、糖尿病に関する長崎市の地域特性について、阿比留先生が解説する。

「長崎市の人口構成は、若者が少なく高齢者が多い点が特徴です。そして若年層は、独身者の割合が高い、加えて食事は外食に頼りがちで不規則、高齢者は、坂が多い地形のため自宅からなかなか外に出ないといった傾向にあります。

ですから、糖尿病の患者数もさることながら、予備軍も多いと思います」（阿比留先生）

長崎大学病院で講師を務める世羅先生が補足する。

「長崎市は典型的な地方都市で、阿比留先生のご指摘どおり、坂が多く市民は近距離の移動でも車や公共交通機関を使い、軽自動車や原付バイクが一家に数台は当たり前です。自

左から阿比留先生、芦澤先生、藤田先生、世羅先生、野崎先生、渡部先生

分で車を運転できない高齢者のために、市が医療機関受診時用にタクシー券を配布しているのは長崎市ぐらいではないでしょうか。

当然、歩く習慣がなければ、日常的な運動量は不足しますので、糖尿病などの生活習慣病になりやすい環境と言えます」（世羅先生）

では、長崎市の糖尿病診療の現状はどうなのか。

「長崎市に限れば、基幹病院が数的に充実しており、糖尿病専門医や糖尿病療養指導士（CDE）が多数いるので、広く水準の高い糖尿病診療が提供されていると推察します。ただ、逆に病院のキャパシティに余裕があるゆえに、市内全体で稼働する共通の病病連携・病診連携のシステムがなかなか根づきません」（阿比留先生）

病病連携・病診連携は各施設で違った対応を展開

阿比留先生の言葉を受けて、各医療機関の病病連携・病診連携への取り組みが紹介された。

「長崎大学病院の場合は、１型糖尿病や妊娠糖尿病などの症例では専門病院や専門診療所と連携していますが、一般的な２型糖尿病に関しては連携せず自院で継続的に診療するケースが多いですね」（阿比留先生）

対して積極的な病診連携を行う済生会長崎病院（以下、済生会病院）副院長の芦澤先生が語る。

「当院には、東長崎地区を中心にかなり広範囲から糖尿病の患者さんが来院され、初診は年間400例ほどになります。また、急性期疾患で当院を受診する患者さんで糖尿病を合併している方も多く、さらに、独居の高齢者や経済的困窮者など、社会的な問題を抱える患者も多数受け入れています。

けれども、その全員を継続的に診ることはできませんから、症状が安定した患者さんは、できるだけ地域の診療所にお返しするよう努めています。その際には、医療ソーシャルワーカーなども加わった多職種のチームにバックアップしてもらっています」（芦澤先生）

同院の内分泌糖尿病内科の渡部先生が言う。

「当診療科の外来患者全体のおよそ１／３は病診連携により地域の先生方と一緒に診ています」（渡部先生）

続いて長崎みなとメディカルセンター（以下、メディカルセンター）の糖尿病・内分泌内科主任医長、野崎先生は、同院の連携システムを解説してくれた。

「新患はできるだけ教育入院していただき、退院したらその後２年間は全例、診療所の先生方と連携しながら診ていきます。２年たってコントロールが良く症状が落ち着いていれば、完全に地域の診療所にお返しします。コントロールが悪ければ、病診連携による診療を続け、当院の定期外来でも診ていくシステムです」（野崎先生）

一方、日本赤十字社長崎原爆病院（以下、原爆病院）は連携には積極的ではないと、内分泌・代謝内科部長の藤田先生が話す。

「原爆病院では、自院で責任を持って患者さんを診るという風土が根強く、糖尿病患者についても、あまり連携はできていません。このため他院に紹介せず、生涯にわたって当院で診ている患者さんも少なくありません」（藤田先生）

病病連携・病診連携の取り組みは病院ごとに違うようだ。

「済生会病院や原爆病院は、それぞれに歴史的な背景があっての現状ですし、長崎大学病院は、臨床以外に教育や研究といった使命があるので他院と同様の連携の実施は困難だと予想できます」（世羅先生）

「それぞれの特色は生かしつつ、お互いにすぐれた部分を学び合って、とり入れ合っていけば良いのではないでしょうか」（芦澤先生）

標準化のハードルは高いが常に視野に入れておくべき

連携の話のあとに、藤田先生から糖尿病診療の標準化が、話し合いのテーマとして挙げられた。

「これまでに長崎市内外のいくつもの病院で糖尿病の診療を経験する中で、病院ごとにいろいろな違いがあることを身をもって知りました。もちろん違いは、必ずしも格差ではなく、むしろその病院ならではの特色の場合もあります。

とはいえ日常の診療の中で戸惑ったり、疑問に感じる場面に遭遇し、もし標準化できる部分があるならば試みてもいいのではないかと思い、

先生方と糖尿病診療の標準化に関して意見交換をしたいと考えた次第です」（藤田先生）

藤田先生はこの集まりに先立って４病院の現在の診療体制や仕組み、システムについて聞き取りを行い、一覧表化（【資料】）した結果、確かに違いが見て取れたという。

「たとえば、若い医師たちは、いろいろな病院をローテートしながら経験を積んで育っていきますが、行く先々で検査や治療の仕方や手順、医療スタッフの介入の度合いなどが違うために、迷いや混乱が引き起こされる場合があります。

それら小さなことからでも標準化し、効率的な医療ができるようになれば、医師はもちろん、患者さんにとっても有益ではないでしょうか」（藤田先生）

病院ごとの仕組みの違いで悩まされた具体的な体験談が、野崎先生から明かされる。

「私がメディカルセンターに赴任して、まず、困ったのが教育入院でした。当院では期間は１週間なのですが、それまで10日～２週間の教育入院しか経験しておらず、短期間で検査と血糖コントロール、教育をするのに苦慮しました。

また、インスリンの混注をするのか、しないのかも施設によって異なりますし、血糖測定の回数など細かい違いがいろいろあって、新しい施設に赴任すると慣れるのに時間がかかります」（野崎先生）

検査や治療の仕方や手順のほかに標準化できる可能性がありそうな患者教育のためのテキストや医師向けのマニュアル、地域連携パスなどについて先生方の話は続く。

「長崎大学病院では、インスリンの混注はしません。そうした手順も含めて医師用のマニュアルをつくっていますが、経験のある医師は読まずに、自分のやり方を通されてしまいます。

患者さんのためのテキストも、以前は印刷物を作成していましたが、新しい薬剤がどんどん承認され、治療の進歩が著しい糖尿病に関しては常に更新が必要です。そこで今は、担当者がパソコン上で情報を更新したものをプリントアウトし、糖尿病教室に参加される患者さんにお配りしています」（世羅先生）

先生方の話を聞くと、標準化でき

【資料】

４病院の糖尿病診療の相違点

	長崎大学病院	長崎原爆病院	済生会長崎病院	長崎みなとメディカルセンター
入院				
教育入院のクリティカルパスの有無	特にやっていない	あり	あり	あり
教育入院の日数	パスがない	2週間	地域包括ケア病棟を利用し2週間	1週間（8日）
カンファレンスの構成メンバー	医師のみ	医師、看護師、管理栄養士、薬剤師	——	医師、看護師、管理栄養士、栄養士、検査技師、歯科衛生士、理学療法士、事務作業補助者
糖尿病教室				
対象者	入院患者	自由参加（一般も含む）	入院患者	入院患者（要オーダー）（自科、他科）
担当職種	循環器内科、眼科の医師の担当あり	医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師	医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師	医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、検査技師、歯科衛生士
糖尿病チーム				
糖尿病チームの存在の有無	なし	あり	あり	あり
構成メンバー	なし	医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師	医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師、医療ソーシャルワーカー	医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師、歯科衛生士
インスリンの扱い				
点滴本体へのインスリンの混注	不可	可	可	可
外来システム				
フットケア外来	予約システムあり	随時看護師に相談	オーダリング	オーダリング（看護師に権限委譲）
透析予防介入の方法	オーダリング	随時看護師に相談	教育入院から対象患者をスクリーニングしてオーダー	オーダリング
栄養指導の継続	単発	単発	管理栄養士に権利委譲、医師が承認	管理栄養士に権利委譲、医師が承認
合併妊娠、GDMの管理	担当の医師にまとめている	なし	なし	GDM外来

る部分を探していく作業は、そう簡単ではなさそうだ。

「しかし標準化は確かに必要です。たとえば、熱意ある医師が上に立って自分のやり方で診療を進めていくと、他院とは異なる独自の手法に進化し、いわゆるガラパゴス化してしまう危険性があります。そのような現象を起こさないためにも、標準化について話し合うことは、意味があります」（阿比留先生）

病院同士の違いを知ることが糖尿病診療の向上につながる

「長崎市内の４病院の中でさえ、これまで知らなかった違いがたくさんあります。今日の話し合いを通して互いの違いを知る大切さを実感しました。

違いを知って是正しようとしたり良い部分をとり入れたりすれば、地域の糖尿病診療の向上が図れると思います」（藤田先生）

その第１歩と目されるのが、2018年11月の『長崎糖尿病地域医療研究会』だ。

「同研究会自体は、20年ほどの歴史のある集まりです。長崎大学と原爆病院、メディカルセンター、同じく長崎市内にある虹が丘病院の４病院が中心となって運営しており、参加者は医師だけでなく、というより８割ほどは医療スタッフが占めます。毎回、テーマを決めて医師を含む医療スタッフがレクチャーする形式が主でしたが、今回はテーマを『糖尿病教室』とし、シンポジウム形式で開催予定です」（阿比留先生）

「各病院が、糖尿病教室をどのように開いているのか、お互いの取り組みを聞き、『それは面白そうだ』、『うちでもやってみよう』などの気づきがあって、ディスカッションが盛り上がる集まりにしたいですね」（藤田先生）

ICTを介した情報共有で地域連携のあり方を模索

長崎県全体の糖尿病診療に臨むにあたって阿比留先生が今、注目しているのは『あじさいネット』の活用だ。あじさいネットは暗号化したインターネットを介した、医療機関同士や薬局をつなぐ情報共有システムで、特定非営利活動法人長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会が運営している。

2004年にスタートしたあじさいネットは現在、長崎県全域をカバーする。当初は主にがん医療、在宅医療の分野で使われてきたが、今後は糖尿病等の生活習慣病への活用が期待される。

「あじさいネットには、いろいろな機能があります。たとえば、診療所を受診する患者さんが病院を受診した場合、あじさいネットに参加している施設同士であれば、病院の電子カルテを診療所で閲覧できます。

しかし、これまで糖尿病の分野では、あまりやり取りが行われてきませんでしたので、糖尿病専門医の多くが、そのメリットや利便性を認知しておらず、活用が進んでいないのが実情でしょう。ただ、2017年11月からは病院と診療所の間だけでなく病院同士でもデータの閲覧が可能になりましたので、これからは病病・病診の双方で連携を加速させるツールになるかもしれません。

そして、すぐにでも使えそうなのが、テレビ会議システムです。ちょうど長崎県の地域糖尿病療養指導士（LCDE）制度が2018年２月にスタートしたので、LCDEの研修講座をあじさいネットのテレビ会議システムを利用して行おうと動いているところです」（阿比留先生）

県全体の糖尿病診療に関しても有益な情報が共有されたところで芦澤先生が言う。

「テーマはなんであれ、それぞれの病院がそれぞれの役割や使命、力量を考えて運営していく中で、お互いに良い点を吸収し合うために話し合う今回のような機会は、これからも大切にしていきたいですね」（芦澤先生）

他の出席者の先生方も異口同音に情報交換の場を頻繁に持つことが大切だと話してうなづく。

活発な意見交換がなされ、さまざまな側面から糖尿病診療の質向上のためのヒントとなる発言が飛び交ったこの日の集まりは、最後も互いの連携の重要性を確認し、締めくくられた。

長崎大学病院
〒852-8501
長崎県長崎市坂本1-7-1
TEL：095-819-7200

社会福祉法人恩賜財団済生会支部 済生会長崎病院
〒850-0003
長崎県長崎市片淵2-5-1
TEL：095-826-9236

日本赤十字社長崎原爆病院
〒852-8511
長崎県長崎市茂里町3-15
TEL：095-847-1511

長崎みなとメディカルセンター
〒850-8555
長崎県長崎市新地町6-39
TEL：095-822-3251